

林大だより



第 85 号 令和 5 年 3 月 17 日

長野県林業大学校 卒業式



令和 4 年度 卒 業 式

卒業おめでとう

翌松会 会長 上田 浩之



月日が経つのは早いもので、二年が過ぎ、もう卒業となりました。

この数年、新型コロナウイルスに振り回され、全寮制であり全国様々な地域から学生が集まる林業大学の運営には、学生保護者の心配もさることながら、安全に正しく導いていただいた校長先生を始め、先生方と関係者の皆様には本当に感謝しています。

無事卒業を迎える中で、度々襲ってくるウィルス感染を少数で抑え、学校一丸となって防ぐ姿はこれからの各学生の人生においてお手本となるものです。

この二年間を振り返ると海外研修こそ叶いませんでしたが、屋久島研修を始め様々な研修、実習等の経験が出来た

ことは本当に良かったと思います。林業に向き合うことで様々な経験をし、成長させていただいた二年間でした。

保護者会の役員、保護者会長も経験させていただき、自分も地元の大学を肌で感じました。至らない点ばかりでしたがご容赦ください。

全寮制での二年間は、他では経験出来ないものが沢山あり、協調性や思いやる心等、多感な時期の子ども達には良い勉強になったと思います。卒業生のこれからに期待しかありません。次世代を担う人材として大きく羽ばたいて欲しいと切に願います。

終わりに保護者会長としての役目が果たせたのかはわかりませんが、無事に卒業出来ることを嬉しく思います。

これからの林業大学が更に発展することを願いますが、これからも応援していきたいと思えます。

卒業

長野県林業大学 校長 丸山 勝規



私は三月末日で三十七年勤めた長野県を退職します。特に林大で若者と過ごした三年間は、人材育成の楽しさ・難しさについて体験できた貴重な時間でした。この間、ご指導ご鞭撻をいただいた皆様、心より感謝を申し上げます。

本校の初代校長 市川圭一氏は、著書「山に教育あり」の中で「林業の将来を資源論で考えるとき、私はかなり樂觀視している。(中略)真面目に愛情をこめて山を育てている林業人は、きっと美しい森林の創造によって報われるし、その日は遠くないであろう。」と記述しています。それから四十数年を経て、現在は、本県人工林面積の約八割が五十年生を超えて利用可能

な状況となっており、伐って、使って、植えて育てる、林業人が活躍する時代です。

林大生は、伐採から育林、施業提案から木材販売まで、高度な技術と知識の習得に努めています。この経験を自信に、林業・木材業に関わる多様な分野で活躍してほしいと願っています。

さて、卒業生・在校生に贈るとともに自分にも言い聞かせたい言葉があります。明治三十四年創立の木曾山高等学校初代校長 松田力熊氏の「林業は観察の学問である」という言葉です。観察とは、現地に足を運び、自分の目で確認し、関係者の話を聴くこと。そして、この情報を基に考えることが大切だということです。例えば、林業では、木を伐る時に森林

に行き、地形や地質、樹木の種類等を調べ、所有者の話を聴きます。その後、伐採や搬出、植栽計画を立案します。また、山崩れが起きたら、被災状況を把握し、原因を考え、復旧対策を立案します。社会生活を送る上でも「観察」する力は生きてきます。自分と関わりをもつ人がどんな考えを持ち、それにどう応えればいいのか。日々の仕事に追われる中、立ち止まって周りを見てみましょう。私も観察眼を磨き、第二の人生を歩みたいと思えます。



とある日の寮食風景 (11月)

次代の森林・林業の担い手として活躍を

長野県林務部長 吉沢 正



林業大学校で学ぶ皆さんにとっては、新型コロナウイルスの感染継続によるオンラインへの海外研修の中止や日々の授業におけるオンラインへの切り替え、また、規模を縮小しての学生寮祭など、学生生活への影響が大きい一年であったと思います。

制約の多い生活ではありませんでしたが、屋外での実習を中心とした高度で専門的な林業技術の習得など、ここ林業大学校でしか得られない貴重な経験や、寮での共同生活で身についた規律性や協調性、友人との絆や思いやりは、皆さんのこれからの社会人としての大切な基礎になることと思います。

新型コロナウイルス感染症が依然として社会経済に影響

を及ぼしている中、ウッドショックや急激な燃料価格高騰など、私たちの生活を取り巻く環境は大きく変化し、省エネルギーや持続可能な社会への意識も一層高まってきています。

皆さんは令和四年三月に完成した新しい学生寮で一年間生活を送られました。この寮は、使用する木材の九割以上が、ここ木曽地域から生産されたものです。さらに、県有施設では初めてチップボイラーを設置し、燃料も木曽の間伐材を利用するなど、森林資源の循環利用を通じて「SDGs」を体感できる機会を持つていただけたものと思います。

先人の努力により育成が進められた県内の森林資源は、今まさに本格的な利用期を迎えています。

今日の林業に求められているのは、再生産が可能な木材を安定的に供給していくこと、さらに伐採後に適切な再

造林を進め、森林の若返りを通じて二酸化炭素の森林吸収量の増加を図りつつ、持続可能な森林づくりを実現していくことであり、長野県の森林・林業は大変重要な転換期を迎えていると考えています。

さらに、ここ数年、ドローンや最先端のICT技術を活用した「スマート林業」の普及が各地で進み、今までの技術や経験を大事にしながらも、新たな技術を融合することで、林業は新たな時代への歩みを速めています。

こうした中であって、皆さん

揺るぎない根を張る林業人に向けて

木曽官材市売協同組合 副理事長・専務理事 原田 浩幸



長野県林業大学校二学年の皆さん、卒業おめでとうございませう。また、一学年の皆さんは、残りの一年、悔いのない学校生活を送ってください。

私は、木曽山林高校を昭和五十四年に卒業して現在に至ります。実は、私の同学年が林大の第一期生でして、今では還暦を過ぎたおじ様です。人生一〇〇年時代ですが、日に日に過去の無理がたたり、あちこちにキシミが…。

んには、林業大学校で身につけた知識や技術を最大限に生かし、持続可能な社会を実現する次代の森林・林業の担い手として大いに活躍されることを心より期待します。

また、皆さんが林業を掘り下げて学んだ知識や経験は、現在世界中で問題になっている「環境汚染」に対して重要な立ち位置です。林業は、環境に直結しています。地球誕生から四十六億年、わずかな時間の中で発生した環境汚染は、人類の「今さえよければ」の勝手な想いから、待ったなしの状態です。今こそ林業の番です。

私が新人の頃は、今のような充実した林業機械とは無縁で、シヨベルローダー一台を用いて木材の極（はい）積みをしていました。時にはシヨベルローダーに載っている一〇〇キロ近くある木材を肩で担ぐなど、無理をしたものです。

皆さんが社会人となるにあたり、学生生活との違いは、勤労に対する対価があるということです。お給料ですね。加えて責任が生じます。

皆さんが今後、就職されるか否かはわかりませんが、どの道へ進むことが、元気の挨拶を丁寧に行うことを心がけていけば、全てがOKです。人生のあらゆる局面に遭遇され

森林の健全化活動をさらに充実させていくには、皆さんに、揺るぎない根を張る林業人になっていただくことです。そんな林業人となる皆さんに大いに期待をし、「継続は力なり」を胸に、豊かな森林との共存を共に未来につなげ、継続していきましょ。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

一年を振り返って



1学年 今井 結波

長野県林業大学校に入学して早くも約一年が経ちました。入学当初は寮生活や友人関係に不安を感じていましたが、寮での生活や授業面でも、林大の仲間に助けられていながら、楽しくあつという間の一年間でした。一年生の時の授業は、一般教養から専門的な科目まで幅広く学習を行っていました。何度も諦めてしまいそうになりながらも、周りの人たちに教えてもらうなどして、しっかりと頭に入れることが出来ました。寮生活で学ぶことは数多くあり、決して一人で生活しているのではないことをいつも考

えて生活していました。また、先輩方との交流ではとても先輩方にかわいがってもらいました。ふざけたところもある先輩方ですが、「やるべきはやる」精神を見習ってきたいと思います。来年からは後輩が出来る、うまくまとめられるか心配ですが、これから頑張っていきたいです。

林大でもう一年間はあつという間に過ぎていってしまふと思えます。しっかり自分のやりたいことを明確にし、その目標に向かって行動していきます。

林業を勉強したくて



1学年 佐々木 ヒロ

自然の中で仕事がしたい。そう考えるようになったのは、高校一年生の頃でした。当時の私の計画では、大学を卒業し公務員になり、安定した収

入と休日がある平和な日常を過ごすはずでした。しかし大学受験がうまくいかず、縁あって木曽南部森林組合に入ってもらいました。約一年、現場で汗水流して働いているうちに、林業という危険な仕事に魅力を感じるようになりました。徐々に林業を幅広く知りたくなり、林業大学校に入学しました。

学校生活はとても楽しいです。チェンソーはもちろん、治山、育苗など様々な分野を入と休日があつて、先輩方から学んでいきます。それらはとても新鮮で、刺激的なものです。また、全寮制ならではの体験もしています。風呂に入る時に人が少ない時を見計らって入ったり、二十四時間ずっと友達と隣に居たりします。社会人を経験したからこそ、時間があること、先生や友達がいること、ありがたさが一層強く感じられます。残り一年、余すことなく林業を学びたいです。



1学年 10月 枝打ち実習



1学年 11月 苗畑実習



1学年 12月 測樹学実習

今年一年を振り返ってみると、様々な出来事がありました。四月は屋久島への研修旅行がありました。コロナで自室待機が多かった私たちの仲を深めるいい機会になり、悲しくも縄文杉は拝めませんでした。五月からは本格的な授業が始まり、演習林や林業総合センターでの学習を行う



1学年 星 正紀

一年を振り返って

実したものを教えていただいています。もうすぐ二年生になり、就職についてもすっかり考えて、就職活動も本格的に取り組んでいかななくてはならないので、頑張っていきたいと思っています。他にも四月には後輩が入学してくるので、後輩の見本となるような学校生活で心がけ、残りの一年をより良いものに出来るように頑張っていきたいです。

こともありました。実際に自分で体験することで理解が深まり、森林について考えることが面白く感じられています。七月には御嶽山での登山道整備がありました。好天に恵まれ、山頂からの景色が今でも忘れられません。十月にはトップガン研修という

があり、学友と競いながらその特性や安全意識を学ぶことができました。ここに書いた以上に多くの出来事があり、毎日楽しく充実した林大生活を送っています。あっとい間の一、折り返し地点ですが、来年度もどんな発見や学びがあるのかとても楽しみです。



1学年 2月 小型移動式クレーン技能講習

林業大学校に入学して約一年が経とうとしています。初



1学年 関口 柁平

一年間を振り返って

めの寮生活ということもあり、新しい環境での生活に不安はあったものの、徐々に慣れ、一年間大きな問題もなく過ごすことが出来ました。また、授業では、信州大学や県の林業総合センターなどから先生が来られ、木材加工学や木材物理学といった専門的な授業の他にも、文学や哲学と

二年間を
振り返って



2学年 大島 隼

私は商業高校から畑違いの林大に入学した。というのも、高校への通学路の途中に木材問屋があり、商業科らしく流通経路などを妄想しているうちに、川上である林業の仕事に興味を持ったからだ。

林大に入学してからは森

林・林業についてのイロハから専門的な学習に至るまで様々な勉強をすることが出来た。机上だけに留まらず、実習で知見を深めることが出来るのも林大の強みだと思



2学年 10月 木曾駒登山

そんな林大で特に印象的だったのが寮生活である。日常生活においてルー

やマナーを守れない身勝手な人も多く日々ストレスを感じてきたからだ。だが、卒業を間近に控えた今、改めて考えてみると非常に恵まれた環境であったのではないかとも思う。社会に出る前に色々なタイプの人がいるということを感じて来たからだ。

私も四月からは社会人となるので、林大で培ってきた能力や経験をフル活用して社会に貢献していきたいと思う。最後になりますが、教職員の方々、地域の方々、保護者の方々、本当にありがとうございました！

二年間を
振り返って



2学年 酒井 浩二郎

林業大学校に入学してもう二年が経ちました。二年前の入寮日は不安な気持ちが大きかったですが、その不安はすぐに無くなり、みんなと仲良くなることができました。寮生活ということもあり、

林大での生活はとても濃いものでした。みんなでゲームをしたり、お風呂場でプロレスをしたり、先生からも何度も

卒業するにあたり



2学年 征矢野 凌生

怒られたことも、今になってはとても良い思い出です。勉強面はもちろんですが、それ以外にもたくさん学ぶことができた林業大学校には、感謝の気持ちでいっぱいです。林業のことができて、素敵な仲間もでき、心から林業大学校にきて良かったと思っています。二年間のことを思い返すと、卒業するのが少し寂しいですが、四月からは社会人として

付いたら時間が過ぎていました。そして今、楽しかった林大生活を終えようとしています。まだ学生として生活したいとも思いますが、社会人になるので、精一杯頑張りたいと思います。最後に、父と母をはじめ、友達や先生など、今まで私に関わってくださった方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



2学年 10月 林業架線学 (実習)

のオーストリア研修があります。屋久島についてはは無事に縄文杉に到達し、その時には陽が差しそうになり感動を味わうことが出来ました。二次のオーストリアはコロナにより無くなってしまいました



2学年 1月 木材利用コース (上松技術専門学校)



2学年 1月 山の環境学 (乗鞍高原)

越えることが出来ました。入学当初は、実家が林業を営んでいるため、実家の跡を継ぐことしか考えていませんでしたが、友達誘いで行ったインターンシップで、フリーの木こりの方に出会いました。その方は半永久的な森林作業道を得意とされて



2学年 2月 そば打ち体験

林大に入学して二年が経過します。入学当初は寮や木曾での生活に不安がありました。林大では二大研修として、一年次の屋久島研修、二年次のオーストリア研修があります。屋久島についてはは無事に縄文杉に到達し、その時には陽が差しそうになり感動を味わうことが出来ました。二次のオーストリアはコロナにより無くなってしまいました。



2学年 野本 晃生

かけがえのない
二年間

このように、メインは林業ですが、寮生活という集団行動の経験により、これからの人生で困難や課題にぶつかっても乗り越えられるだけの力を得ることも出来ます。最後に、林大二年間を支え

たが、替わりとして北海道研修に行かせていただき、北海道ならではの樹種や林業に対する工夫について学ぶことが出来ました。これらの研修は、貴重な体験であると共に、四十三期の皆と一緒にかけたことは、人生の財産になりました。



てくれた両親、先生、林大生を受け入れてくださった皆様、本当にありがとうございます。いつの日か「笑顔」で会えることを楽しみにしています。



2学年 藁谷 奈々

将来の目標

あつという間に二年が経ちました。入学当初は初めての寮生活に戸惑いもありましたが、時間と共に不安は消えていきました。学業や生活をすすめる上で大変だと思う部分もありましたが、友人や先生方に支えられて乗り越えることが出来ました。

卒業後は実家の方に戻りますが、ぼんやりとしていた目標がはつきりし、みんなが「来たい」と思えるヤマづくりを、これからしていきたいと思っています。

卒業後は実家の方に戻りますが、ぼんやりとしていた目標がはつきりし、みんなが「来たい」と思えるヤマづくりを、これからしていきたいと思っています。

おり、インターンシップ中にお話を聞く中で、私が今まで思っていた林業とは全くの別物で、私もこんな林業をやってみたいと感じました。二年生の六月には一週間インターンシップに行き、仕事をする上で大切なこと、山づくりのことなどが出来ました。

保護者の
ページ

絵

の

一

言

夢を叶えるために

北原 良香



息子は、幼い頃から自然と親しむことが好きでした。森

林が好きだった祖父と一緒に山へ入り、きのこや山菜の採り方を教えてもらったり、木の種類などを教わっているうちに、より一層自然への関心が強くなっていったと思います。中学校を卒業後、将来は森林を守る仕事になりたいという思いで、森林科のある高校へ進み、勉学に励んでいました。その後の進路も、やはり林業をやりたいという強い意志のもと、林大へ入学することができました。



10月 トップガン研修

入学当初は、親元を離れて

いくさみしさと、寮できちんと生活していけるのかという不安が大きくありましたが、毎日新しいことを吸収し、周りの友達と刺激し合いながら切磋琢磨している姿を見ながら、今は本当に成長してたくましくなったと感じ、とても喜ばしく思っています。あと残り一年も、夢に向かって林大生活を謳歌してほしいと思います。

林大生活も 折り返し地点

末次 隆人



息子が高校三年生の時、突然「林業の道へ進みたい」と言い出しました。高校へ入学する前までは、農業や酪農、さらには自動車関係へ進むと言ってみたり、全く進路が定まらない状況でした。突然長野の林業大学校に行きたいと言われて、完全寮生活ということで、親としてみれば不安でしかありませんでした。でも、入学してから早くも一年、何事もなく過ごせている？と思っているの、残りの一年しっかり林業を学んでもらいたいです。

頃に教えてくれるでしょう。折り返しの後半は一瞬で時が流れるように感じると思いますが、残りの林大生活を皆さんで存分に楽しんで、「楽しかった」と自慢できる人生の一コマにしてください。

次の百年を 造る人材へ

長瀬 聖享



木曾に生まれ育ち、自然に触れて生活していたとはいえ、林業に関する道を夢見るとは思っていませんでした。私自身、木材の輸送に携わっていますが、運搬する荷物の中に木材があると言うくらい感覚でいたので驚きました。また、近くに住んでいるが、林業大学校がどんな学校なのかも知りませんでした。息子がどうしても入学したいと聞き、いろんな様子がわかって来て、林業の未来を創造する高度な教育が受けら

れる学校なのだと知りました。

入学してからの息子は、生き生きとし、思いっきり林大生活を謳歌しているようです。コロナ禍で活動は少なめかもしれませんが、初めて体験することが多く、たくさん話してくれます。

今、林業はとも注目を浴びていますが課題は山積みです。信州、特に木曾においては基幹産業です。森を守り、人を守り、次の百年を造る人材に育ってほしいと願います。

はや一年

茂木 正道



早いもので、入学から一年が経とうとしています。この一年も新型コロナウイルスが猛威を振るい、先生方や大学関係職員の皆様のご苦勞も多かったことと存じます。感謝申し上げます。

大きな世界を
目指して

輪湖 義治



息子は、祖父が木材業を営んでいることから、自然と林業に興味を抱いているように感じた。進路の相談を受けた時、私自身は林業に接したことがなかったが、正直少し戸惑いました。学校見学に伺った際に、自然豊かな環境のもとで学べることやカリキュラムの内容、取得可能な資格の多さを知り魅力を感じ、全力で応援をしてあげたいという思いになりました。

親元から遠く離れての寮生活も、先輩方や友人に恵まれ楽しく過ごしているようです。帰省のたびに少しずつ遅くなってきていることを感じてうれしく思っています。私たちが夫婦も木曽福島をはじめ、長野へ出かけることが多くなり、工芸品や特産物、豊かな自然に触れ、今まで知らなかった技術や知識を得て、生活にもよい刺激をもたらしています。

林業はサステナブルへの貢献度が高く、将来に希望のある職種だと思います。あと一年、しっかりと学び、今後活躍のできる人になれるよう成長してほしいと思います。

我が家は庭に四季の花々、裏にヒノキ林、その奥の山からはフクロウの声が聞こえる自然豊かな場所にあります。

息子はそんな環境の中で、幼い頃から好奇心旺盛に育ちました。小学生の時、切った葉っぱを運んでいたハキリバチを見つけて追っていたこと、家の通気口を入りするキイロスズメバチを見つけ、生態を観察していたこと、自然を注

意深く見つめる目に感心しました。高校では山岳部に入り、県内外の数々の山に登りました。帰宅して写真を見せながら、山の美しさの話から、山の自然への思いが伝わってきました。

そんな息子が、長野県で山の自然や樹木の勉強がしたいと、林業大学校への進学を決めました。自然との関わりを

深くしてきた彼にとって、よい選択だと思いました。

林大での学びは、基礎から実践までを通しての大きな力となり、寮での生活は、自立心を高める大きな力となっています。将来に向けて、今後

卒業を前に

上田 浩之



子どもには地元の高校に入り、なにかを学び考え、将来が安心な就職をしてくれればと思っています。

地元の木曽青峰高校森林環境科に入学し、進路を考えるうちに、その上位の林業大学校に行きたいと言う息子に自分には無いものを感じ、期待というかなんというか、不思議な気持ちを抱いたのを思い出しました。

それから二年が経ち、林業

の道で食べていこうと話す息子に、生活環境が変わる事の不安は漏らすけど肝心の職についての不安を語らない息子に期待しかありません。

貫く勇氣、変わる勇氣も必要な時が来るでしょうが一緒に前を見てやろうと思います。育て導いていただいた林業大学の先生方や関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

卒業を期に

思うこと
小酒井 正人



息子が高校に入学して間もない六月に妻がガンで先立ち、父子二人での生活が始まりました。とにかく無事に高校を卒業させねばと、仕事と家事をこなしてきましたが、それ以外は本人に任せっきりで、進路のこともそうでした。高校三年になり、進路指導

面談の時、初めて林大を受験すると知り、以前から興味を示していた林業を真剣に考えているのなら応援しようと思えました。

林大受験の時、千葉から長野への長い道のりの車中で色々な話をした時に、林業に対する高い志を知り、立派に育っていることに涙が溢れました。

そんな息子がついに卒業を迎えます。卒業生の皆さんそれぞれに新たな始まりを迎えますが、志を持っていくつも



2学年 1月 森林管理コース (事業体訪問実習)

人とのつながり

神農 瑞希



娘が幼い時は、よく発熱して体が丈夫ではなかったです。でも、虫や動物が好きで、キャンピングカーで出かけては、自然を楽しんでいました。林業に興味をもったのは、幼馴染みのお母さんが勧めてくれた「聞き書き甲子園」へ

の参加。静岡で林業を営んでおられる方へ取材したことがきっかけでした。それから母の同僚の誘いで、森林ボランティアに関われる森女（もりじよ）養成講座を親子で受講。またそれが縁で、林大を知りました。

林大での学びや寮生活は、親身になってご指導して下さった先生方や良き友人、先輩に恵まれて、とても充実した日々を送れたと、娘の成長ぶりから見取れます。

娘には、人とのつながりであるということをお忘れないうでほしいです。そしてこれからも、様々な人とのつながりで成り立つこと、感謝する

ことを忘れずに、自分の道を進んでほしいです。林大の皆様、ありがとうございました。



2学年 2月 森林資源活用コース（飯田市内竹林）

林大から林業へ

柳 正基



早いもので、長男がこの春林大の卒業を迎えようとしています。同時に、実家を離れた高校・大学を通じての寮での暮らしも終えようとしています。家を離れた当初は不安でしたが、寮生活を通じて、特に林大に進んでからは大変に遅くなった気がしません。林大での寮生活は高校と違い集団での暮らしだったからでしょうか、集団で生活し周りと協調していく中で人として成長したのでしょうか。この二年間で関わっていた方には先生、同級生、地域の皆様には大変に感謝しています。

入をする生き物です。林業や建設現場は毎日毎日に変化の連続で、同じ状況で作業する事は少ないです。ですから現場では、常に毎日が危険と隣り合わせなのだと思ひ、足元、特に同線を確認して作業する事が大切です。特に最も大切なのは、慣れから生じる横着行動をしないという事です。「急がば回れ」を忘れる事なく、日々精進して下さい。高校では森林環境科に進み大専で林業を学び、知識は少なからず整っている事でしょう。しかし、現実の現場作業では右も左も全く分からぬ素人同然です。分からねぬ事は先輩方に確認しその教えを素直に取り入れて成長して行つて下さい。



おっちゃんのおひとり言
高橋 良平

縁あって俺は、大卒後から障害福祉の業界で介護員をしている。入所者の中には中途

障害と云って、社会人時代に事故や病気で施設入所を余儀なくされた方も多くいる。下半身不随や麻痺、発作等の後遺症に日々悩まされている。もちろん生活の大部分は介助が必要だ。

予期せぬ突発的な病気においては、「なんで俺が」と神を恨み、事故による受傷においては、「あの時こうしていれば」と後悔や自責の念に苦しみ、元に戻らぬ余生を送る方々の心中とは如何なるもの

か、想像に耐えがたい。今春より社会人になる若者の前途に水を差すようだが、仕事や人間関係で悩むことができるのは幸せなことだ。社会で悩むことがもうできない人も大勢いる。五体満足に感謝し、自分だけが人生の底辺に居るなんて思ふなよ。どうか全ての卒業生が、生涯事故や大病に見舞われることなく、生涯活躍できますように。

さて、卒業後は林業の道へ進む長男へ、建設業に従事する一人の先輩としてアドバイスを贈ります。第一に、事故をしない、怪我をしない・させない事が大切です。人はミ

私は、高校・大専と専門課程に進みそこで学びその知識を生かし現場に出る事を決意してくれた長男を尊敬し誇りに思っています。この二年間の林大での学びや暮らしで得た全ての事を生かし努力して、林業の、そして木曾地域の担い手になってくれる事を期待しています。

新時代の船出に
寄せて



卒業生（第四期）
倉本 栄
（長野県上伊那地域
振興局林務課 課長）

林大第四十三期生の皆さん御卒業おめでとございませす。立派に成長されたお子様の姿にご家族の方は感無量のこととお喜びいたします。

繋がりを大切に



二学年担任
平澤 直子

私が林大で担任を持つのは、今回で二度目となります。前回から三年のプランクを抱え、期待と不安を胸に学生の前に立ちました。そして、「二度目だし、何とかなるかも」という驕った考え

檣のアドバイス

思い返せば、私が林大を卒業し、長野県に入職してからもう三十九年が経過し、還暦が目前なのだという現実。月日の経つのは早いものです。皆さんが自然豊かな木曾谷で過ごした二年間は、とても密度の濃い貴重な時間になったことと思います。勉学はもとより、寮生活で寝食を共に過ごした二十名の同志は、一生の宝となります。

四月からは新たな勉強の日々が始まります。林大で学んだ林業知識はあくまで基礎です。仕事で担当する部署の仕事では、初めて耳にする言葉や目にする事柄も多く、悩み何回も壁に突き当たります。そのような時は、一人で悩まず皆さんの周りにいる林大先輩諸氏に相談してみてください。きつと良いアドバイスをしてくれるはずですよ。

仕事を進めるうえで重要なのは身体が健康であることです。健康な身体があつての仕事です。特に心身のバランスは重要です。仕事を追われる場面もあると思いますが、余暇を利用したスポーツや趣味、友人等との飲み会など「オン」と「オフ」の切換えで健康と仕事のバランスを上手にとってください。

林大時代にある先生が「林大は四年制大学で学ぶ内容を二年間で学ぶ。君たちは恵まれている。」と言われました。私も就職後に大卒同期の皆さんに負けないようにと頑張ったような気がします。新人らしく失敗を恐れず何事にもチャレンジ

レンジ精神で向かっていってください。昨年末現役を引退した「吉田拓郎」が、デビュー時に「古い船には新しい水夫が乗り込んでいくだろう 古い船を今動かせるのは古い水夫じゃないだろう」と歌い、現代に続くその後の新たな歌の世界を開拓しました。

は、見事に打ち砕かれました。わずか三年の間に、林大生を取り巻く環境は大きく変化してしまいました。新型コロナウイルス感染症対策のため、校内の感染対策はもちろん、学校行事の縮小、地域行事は中止や不参加、アルバイトも禁止、状況によっては外出制限もありました。

学生の考え方や生活も変化しており、プライベートを大切にする一方、密を避けるた

め連絡はLINEが中心で、全校で話し合う機会もなかなかつくれませんでした。

方との関係が希薄となったことが一因ではないかと考えます。これまで、アルバイトや地域のイベントなど、地域の方と繋がりを持つ機会が日常的にありました。今でも数少ないイベント時に、地域の方の指導で動く林大生は、私が学校でガミガミ言う時より、ずっと素直にキビキビと立ち働いていました。

林大の良いところの一つとして「全寮制」を挙げ「二年間の寮生活が楽しかった」と言っていました。今年度卒業してきました。今年度卒業した四十三期生はどうだったでしょうか。在学中は「学校と寮だけの生活でストレスが溜まる」といった声も聞かれました。行動制限はもちろんです、それ以上に学校以外の

息苦しい二年間だったかと思えます。もっと皆さんの気持ちを汲んで対応すればよかつ

たのかも後悔しています。ですが、皆さんにも仲間との楽しい思い出があるでしょう。林大の一番の強みは、縦（先輩後輩）と横（同期）の繋がりがだと思えます。さらに皆さんを見守ってくださった地域の方々、授業でお世話になった方々、林大で得た繋がりは宝物です。きつと、今後の社会人生活で大切になると思えます。これからは新天地で新たな繋がりを作り、地域の中で活躍する人になつてください。応援しています。

林大生の活動報告

新型コロナによる臨時休校など、前期に引き続いて影響を受けましたが、林大生は持ち前の「パワー」を発揮して、地域の皆さまとの交流も深めてきました。ここに掲げたのはそのほんの一部ですが、今後も地域を愛し、地域に愛される林大生であってほしいと願います。

寮祭（木望祭）（10月8日）



学生自治会が準備を進めてきた寮祭を開催。当日は、地域の皆さまにも数多くご来場いただき、ブース、実技披露、バザーなど盛況でした。

木曽町駅伝大会（10月23日）



木曽町駅伝大会に林大からは4チームの選手とスタッフが参加。選手たちは晩秋の木曽路をさわやかに走り抜けました。

地元杭の原地区祭り（11月3日）



文化の日、地元杭の原地区のお祭りに「木の実のクラフト体験コーナー」のブースを作って参加。地域の皆さまとの交流を深めました。

雪灯りの散歩路（2月3日～5日）



木曽路の冬の風物詩に、林大生はスタッフとして、アイスクンドルの運搬設置から片付けまで3日間を通じて参加。冬ならではのイベントを楽しみました。



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058